



白骨の御文章

御文章

ご自宅で仏事が勤められた際の最後に、塗りの箱に納められた、和綴じの本を丁寧に頂戴し拝読します。また、お寺の法座にお参りされた際には、ご法話を聴いた最後に、布教使さんが拝読され、「あなかしこ あなかしこ」と本を閉じられる、この様な姿は浄土真宗の門徒にとって見慣れた光景かと思えます。

本願寺第八代の蓮如上人がお書きになられた「御文章」(ごぶんしょう)は、親鸞聖人がお示し下さった阿弥陀様の教えを、平易に分かりやすく伝えるが為に、離れた各地に住む門信徒へと送られたお手紙です。その数は二百数十通も有ると言われています。蓮如上人が47歳の頃から、お亡くなりになる前年までの、37年間にわたり書き続けられました。「聖人一流章」「末代無智章」などは、良く耳にされていると思えますし、「あしたには紅顔あって ゆうべには白骨となれる身なり」と、お葬儀の際に拝読される「白骨章」も有名かと思えます。

「御文章」はお手紙と言っても個人と個人のやり取りと言う訳では無く、文字の読めない人が多かった当時に、「御文章」は門信徒の集まりの場で公開され、皆の前で朗読されました。このことによって、親鸞聖人がお示し下さった教えが、多くの方々に正しく伝わるとともに、本願寺教団は発展し、飛躍的に門徒数は拡大しました。

蓮如上人はこの員弁の地を歩き、布教されたとお聞きしています。蓮如上人

直筆のお名号が残されておられるご寺院が有り、その際に浄土真宗に改宗した寺院も多く有ったと聞きます。また、私たちがお参りの際に親しませて頂いている正信偈は、蓮如上人の時代に朝夕のお参りに読まれるようになりました(それまでは善導大師の六時礼讃が読まれていた)。日々のお参りの中に、蓮如上人のお念仏のみ教えをこの私にとどけたいという情熱・息吹を味わいたいものです。

副主任 草薙善照(照順寺)

撮影 広報部 松原大(光明寺)



裏書き (本願寺第12代宗主) 釋准如 花押

桑名の老舗
仏壇・仏具・お洗濯
福井屋
白い象が目印
寺町本店 新西方店 明竜工場
代表 0594-22-3121

墓石・石材工事一式
石 慶
大安町石樽南
デンワモヤッパライシヤ
☎78-0148
(工場) ☎78-2039

■運動具
■事務用品
■学校教材教具
■開運印・実印
■銀行印・認印
しまや
(有) **嶋屋**
いなべ市北勢町阿下喜
TEL72-2151
FAX72-3436

団体参拝から個人旅行まで 旅のご用命は
観光庁長官登録旅行業第55号(一社)日本旅行業協会正会員
名鉄観光サービス株式会社
四日市支店
四日市市諏訪町4番5号 住友生命四日市ビル1階
電話 059-353-8558 本願寺担当者:佐藤 篤